



え い ち 叡智と愛 3.0

白杵市立北中学校
校長通信 NO.16
令和8年7月15日
文責:戸高浩二

北中生へ 1学期の北中生と夏休み

小学校で身に付けた力と意欲あふれる1年生

昨年度、「北中に行こう」で2回、1年生の姿を観た。その印象は「礼儀正しく、オンとオフの切り替えがしっかりできる」だった。その小学校で身に付けた「けじめのある姿」と、中学生になって「新しいことに挑戦する意欲」をいろんな場面で観ることができた。

体育大会での学年練習では、自分たちで声を掛け合いながら、やるべきことを一つひとつ確実にやっていた。授業では、積極的に発表する。真剣に聞く。集中して作業に取り組む。そんな姿をいつも観ることができた。その姿に、一生懸命さや意欲の高さを感じた。

たくましい2年生

2年生はたくましさに磨きがかかった。自分たちのことは仲間と力を合わせながら自分たちでやりきる。体育大会での自主練習や、繰り返しやった入退場の練習。仲間と手際よく料理を作っていく調理実習。声を掛け合いながら、楽しそうに取り組んだ支援学校での交流会。「今、何をすべきか。どうすればうまくいくのか。」そんなことを考えながら、自分たちで取り組む姿をいろんな場面で観た。

1年生の時のあどけない表情はもうない。今の2年生の表情は凛々しくたくましい。“北中のバックボーン”として北中を支える姿は、実に頼もしい。

継承と進化をみせた3年生

3年生が入学した時の3年生はパワーと勢いのある学年だった。2年生の時の3年生は、そのパワーと仲間との強い絆を感じる学年だった。そして、今の3年生。2年間、先輩の後を追いかけてきただけに、そのパワーと仲間との絆をしっかりと受け継いでいる。そして、その伝統に“自分たちらしさ”を取り入れながら北中をさらに進化させてくれた。

それを一番感じたのが体育大会だ。体育大会を観に来た人がこう言った。「途中で帰る予定で来たが、真剣に取り組む生徒の姿を観て、最後までいた」人の心を動かすことは、簡単ではない。体育大会では、一人ひとりが手を抜かず、最高の姿をみせようとした。そして、最後の演技では、自分たちのアイデアを入れながら、感動を与える演技を創り上げた。

2学期。どのようにして、北中をさらに進化させていくのか。楽しみだ。



夏休みに向けて

さあ、いよいよ38日間の夏休みが始まる。この夏休みは“極める”夏休みにしてほしい。

「理科を極める」「野球を極める」「料理を極める」「手品を極める」自分がパワーアップするために、何か一つのことに夢中になって、極めてほしい。「これだけは自信がある」というものを身に付けた人は強く魅力的だ。

